

平成23年度鹿児島市学校教育研究大会に係る研究実践のまとめ（中間報告）

鹿児島市立甲南中学校

1 実践研究主題

「わかる授業」の創造
～ 指導内容の精選及び指導法の工夫・改善を進め、「確かな学力」の定着を図る ～

2 研究の概要

- (1) 研究仮説
補充・発展など個に応じた学習内容や習熟の程度に応じた指導を柔軟かつ多様に導入した授業を展開すれば、生徒に「確かな学力」をつけることができるだろう。
- (2) 研究の視点
 - ア 基本的な学習・生活習慣の徹底を図るとともに、生徒が将来にわたって心に財産をつくる具体的な生徒指導を実践する。
 - イ 子どもの実態を踏まえた教師による行き届いた計画的な指導をすることで、生徒が五感をフル活用して意欲的に活動する「わかる授業」を展開し、生徒一人一人の学力の向上を図る。特に、「読む・書く・話す・聞く・考える・発表する」などの言語活動を重視した指導の充実を図る。
 - ウ 将来の生き方についての自覚を深めるとともに、自己を生かす能力を育成することによって、生徒一人一人が主体的な進路選択ができるように、発達段階に応じた進路指導と系統的な進路指導を推進する。

3 検証（実践）

研究の視点	実際の取組	成果
ア 基本的学習習慣・生活習慣の確立	① 2分前着席・1分間黙想の徹底 ② 集団行動の確認・徹底 ③ ショートテストの実施と宿題の提出の工夫	① 生徒会本部，学習部が呼びかけ，生徒は授業開始2分前から着席し，1分間黙想をして待っている。そのため，落ち着いた中で授業のスタートができています。 ② 無言整列・無言集合を徹底することで，集会時における集合の状態が良くなり，話を聞く態度も良くなっている。 ③ ショートテストで前時の振り返りを行い，毎日の宿題（家庭学習）の点検・確認を実施することで，家庭学習が習慣化されてきた。
イ 計画的な学習指導を通した生徒一人一人における学力向上	① ICT機器等を活用した教材提示 ② 単元ごとの自己評価ワークシート，定期テストなどを通して生徒の理解が十分でない部分を見出し，個別に指導を行うなどして，弱点分野の克服に努める。 ③ 数学科と英語科において，習熟の程度に応じた少人数学習に取り組んでいる。 ④ 他教科との関連付け ⑤ 授業外での個別指導の充実 ・昼休みや放課後に個別に呼んで指導したり，質問を受けたりする。 ・課題の添削時にアドバイスなどのコメントを記入する。 ⑥ 生徒にとって身近な場面における必然性のある学習目標の提示 ・行事に関する問題を提示する。 ・郷土のことについての学習(導入)課題などを与える。	① 板書の時間短縮につながり，生徒一人一人の学習支援をする時間が増えた。 ② 理解するまで，個別指導（追試という形）を実施した結果，生徒がそれぞれ努力する姿勢が見えてきた。 ③ 発表や質問をする機会が増え，学習内容の定着度が高まった。 ④ 「あー，だからか…」と声をよく聞くようになった。 ⑤ 昼休みや放課後に個別指導を行うことで，次の授業のときの生徒の姿が生き生きとしてきた。 ⑥ 導入を工夫することで，生徒の課題意識も高まってきた。
ウ 生徒一人一人が主体的な進路選択を図るための進路指導	① 様々な場面や方法（掲示や口頭説明）で情報を共有できるように工夫し，生徒自身が選択できるように指導している。 ・校内に進路コーナーを設けて掲示する。 ・高校説明会や体験入学の案内 ② 高校の合否だけにとらわれず，将来を見通した進路選択ができるように指導している。 ・進路通信などで受験の考え方や進路設計の考え方を紹介する。 ・三者相談の実施 ③ 上級学校調べなどを通して，将来の生き方について考えさせる。	① 様々な視点で進路を考えるようになり，進んで高校の体験入学などにも参加し，意欲的に「生き方」を考える姿が見えるようになってきた。 ② 進学について，教員と保護者の認識を深めることができた。 ③ 進学についての不安を少し取り除くことができた。